

コンセッション事業推進セミナー 仙台空港の取組み



2020年12月22日



仙台国際空港

仙台空港民営化の概要

仙台空港の概要



所在地：宮城県名取市、岩沼市

面積：238.62ha

設置管理者：国土交通大臣

運営事業者：仙台国際空港株式会社

滑走路：2本 (A) 1,200m x 45m (B) 3,000m x 45m

駐機スポット：14 スポット

運用時間：7時30分 - 21時30分 (14時間)

写真提供：(株)アドステージ

仙台空港民営化の概要

仙台空港の運営権者

仙台国際空港株式会社 2015年11月2日 設立
2016年 2月1日 ビル事業開始
2016年 7月1日 空港運営事業開始

議決権比率

東急株式会社 42%、前田建設工業株式会社 30%、豊田通商株式会社 16%、東急不動産株式会社 9%、株式会社東急エージェンシー・東急建設株式会社・株式会社東急コミュニティー 各1%

運営スキーム

空港基本施設に運営権設定 + 空港ビル会社株式取得

運営期間

30年間 + 最大30年間の延長オプション

運営権者の義務

実施契約、要求水準に規定

天災地変等を除き、独立採算で経営

運営権者の権限

着陸料等の設定、空港管理規程の制定、増改築ほか

宮城県知事の「600万人、5万トン」の先見性



“東北再興”の絶対条件・交流人口の拡大

交流人口
拡大の鍵

中部以西や海外からの誘客強化（航空旅客増加）

そのためには

航空路線の大幅な拡充（既存路線増便＋新規就航）

どうやって

空港民営化

- ① 空港・関連施設の一体的経営，効率的設備投資で収益を改善
- ② 運営権者の判断に基づく柔軟な着陸料設定
- ③ 民間の知恵を活かした地域住民・関係事業者との連携

効果発揮

東北再興の
拠点化

観光・ビジネス・物流等の空港機能を更に充実させ、
東北全体の活性化を牽引する拠点空港へ

宮城県知事の「600万人、5万トン」の先見性



【地元からのメッセージ1】 運営権者の皆様へ

▽ 以下の経営理念を持った事業主体に空港運営を担っていただきたい

- ① 「ヒト・モノの交流拡大」を最優先に考えること
- ② 多様な主体との“連携の輪（和）”を拡げていくこと

民営化後の成長イメージと取組例

- 空港立地自治体
 - 関連民間企業
 - 東北各県
- との
緊密な連携

多様な主体との
連携の輪(和)拡大

東北再興の
拠点空港へ
(600万人・5万トン)

「ヒト・モノ交流」の
拡大最優先化

- 旅客数・貨物量に応じた着陸料等設定
- 安く・気軽に利用できる航空路線誘致
- 他空港とのネットワーク強化
- 新規輸送ルート構築
- 従来手法・固定観念に囚われない改革
(規制緩和による利便性と収益性の両立)
- 航空会社等の要望に沿った施設整備
- 全ての空港利用者*の利便性向上

仙台空港
民営化

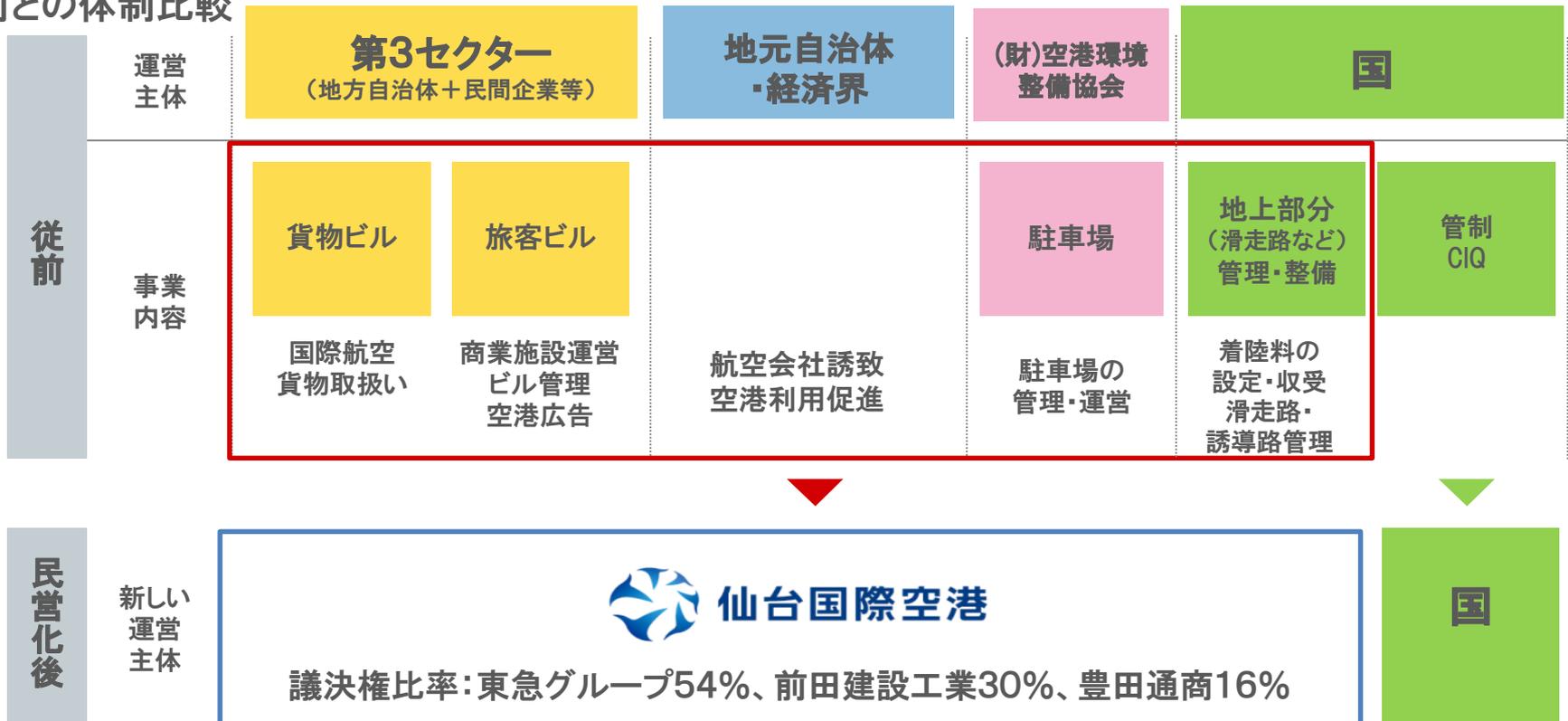
※ ここでの「空港利用者」とは、航空旅客のみならず、
一般客(送迎客等)、航空会社、その他広く空港を利用する者を指す。

民営化による空港運営の一体化

運営主体の集約により、一体的かつ機動的な経営を実現

国が土地等の所有権を留保しつつ、民間に運営権を設定し、滑走路等の航空系事業と空港ビル等の非航空系事業を、民間（＝運営権者）が一体経営する

従前との体制比較



※ エアラインの誘致・利用促進活動に関しては地元自治体・経済界と協働

仙台空港民営化後の取組み・実績

仙台空港 旅客数/貨物量の推移

年度	実績					計画	
	2015 民営化前	2017	2018	2019	2020 (9月末まで)	2020 (民営化5年後)	2044 (民営化30年後)
旅客数	311 万人	343 万人	361 万人	371 万人 計画: 390万人 前年比: +2.8%	47 万人	411 万人	550 万人
国内線	295 万人	315 万人	330 万人	333 万人 計画: 348万人 前年比: +0.9%	47 万人	361 万人	435 万人
国際線	16 万人	28 万人	31 万人	37 万人 計画: 41万人 前年比: +19.3%	0 万人	49 万人	115 万人
貨物量	0.7 万t	0.7 万t	0.7 万t	0.6 万t 計画: 0.7万t	0.1 万t	1 万t	2.5 万t

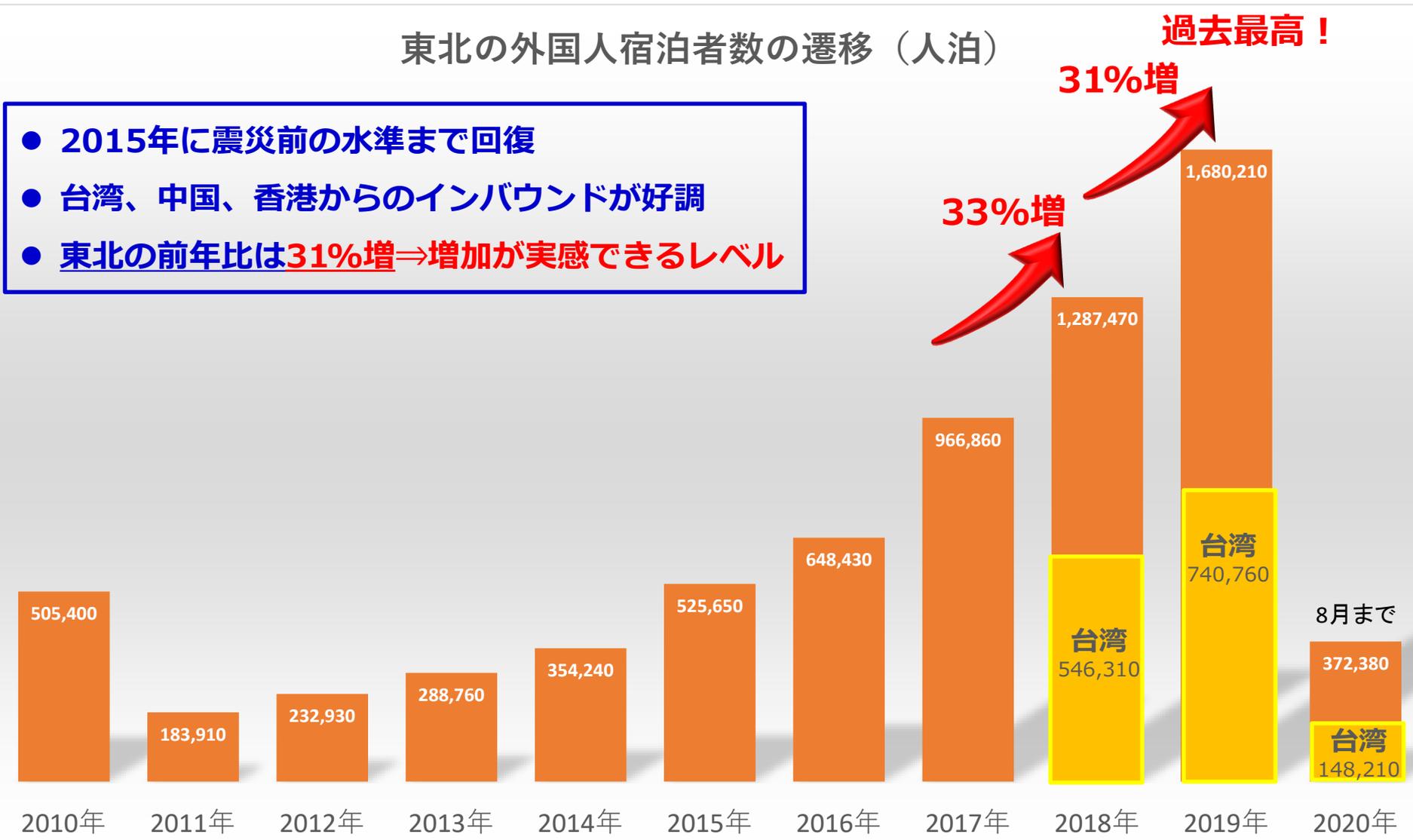
2019年度は、計画旅客数まで及ばなかったものの**3年連続過去最高**[※]の旅客数を達成

※空港整備法に基づく第二種空港指定された1964年3月以来

東北地域のインバウンド状況

東北の外国人宿泊者数の遷移（人泊）

- 2015年に震災前の水準まで回復
- 台湾、中国、香港からのインバウンドが好調
- 東北の前年比は**31%増**⇒増加が実感できるレベル



エアラインセールス①

● 民営化以降の新規就航(国内線)

年	路線	航空会社		運航頻度	運航開始日 (予定含む)
2017	神戸	スカイマーク	FSC	毎日2往復	2017/7/1
	新千歳	Peach	LCC	毎日2往復 (現在は3往復)	2017/9/24
2018	新千歳	IBEX	FSC	毎日1往復 (現在は3往復)	2018/3/25
	出雲	FDA	FSC	毎日1往復	2018/4/20
2019	成田	IBEX	FSC	毎日1往復	2019/7/1
	中部	エアアジア	LCC	毎日2往復	2019/8/8

運航再開も含む

エアラインセールス②

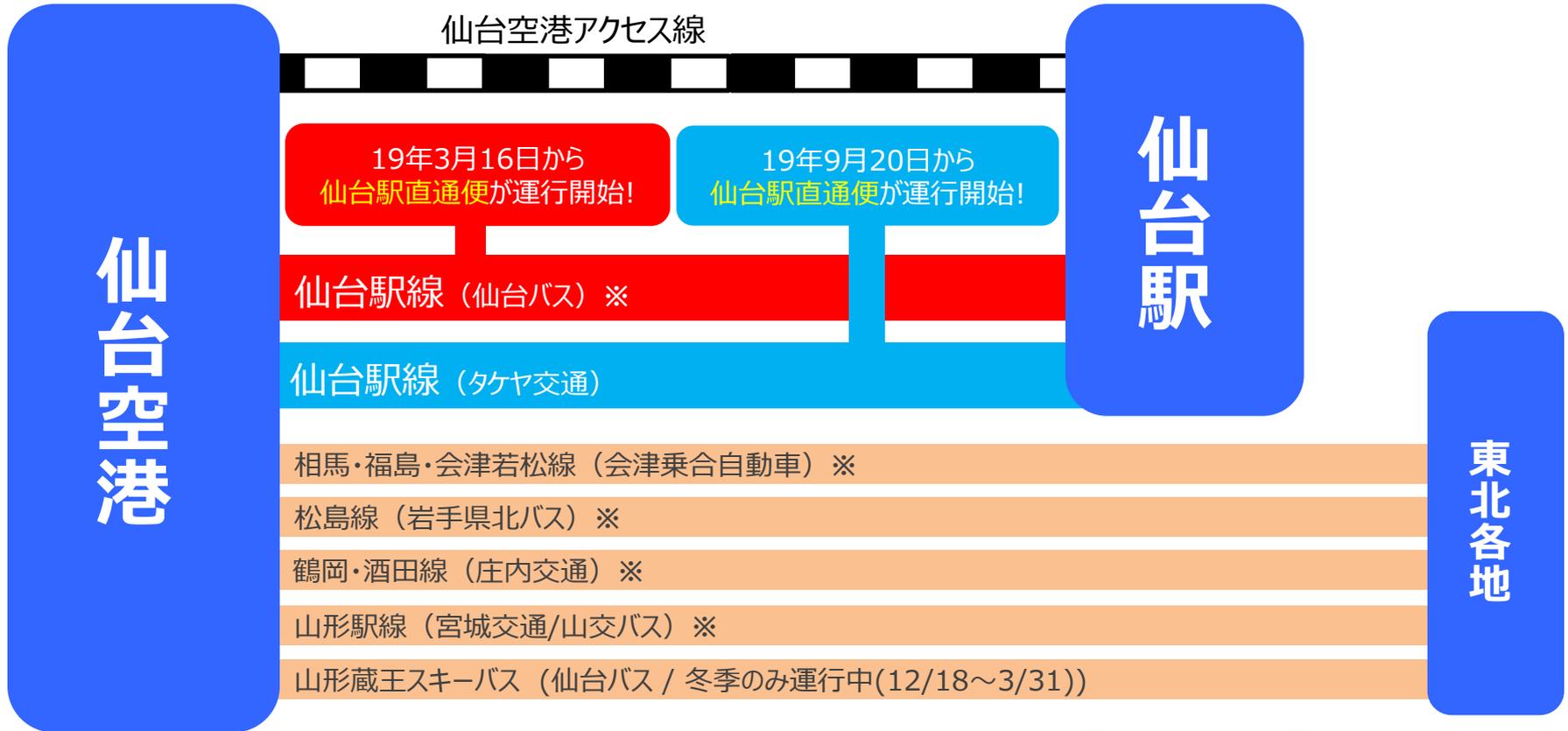
● 民営化以降の新規就航(国際線)

年	路線	航空会社		運航頻度	運航開始日
2016	ソウル	アジアナ航空	FCC	増便 週4往復 ⇒ 週7往復	2016/6/28
	台北	タイガーエア台湾	LCC	週4往復	2016/6/29
	台北	トランスアジア	FSC	週2往復	2016/10/6
2017	台北	Peach	LCC	週4往復	2017/9/25
2019	バンコク	タイ国際航空	FSC	週3往復	2019/10/30
	大連 (北京)	中国国際航空	FSC	週2往復	2019/11/2

空港アクセス強化による利便性の向上

仙台駅⇔仙台空港間でのバス運行開始

- お客さまのニーズに合わせた選択肢の増加
- 鉄道運休時の代替手段としての活用



※運休中 2020年12月1日時点

急増するFIT対応



- 空港ターミナル内
レンタカー会社
カウンター

- 訪日外国人限定
東北地方の高速が乗り放題の
Tohoku Expressway Pass
～NEXCO 東日本～



インバウンド旅客・広域観光への対応



到着エリアに「**みちのく観光案内**」（運営：JTB）を設置

- 多言語対応、広域案内の提供
（JNTO認定外国人観光案内所カテゴリー2認定）
- バス・鉄道（新幹線含む）のチケット販売や宿泊予約
- インバウンド旅客向のJR East Pass、
JR East-South Hokkaido Rail Passの発売・引換

広域連携の取組み

仙台空港から隣県である山形県・岩手県へのインバウンド誘客の取組み

台湾市場：

- ・ ブロガーを誘致しブロガーが旅した旅行商品を販売（山形県）
- ・ タイガーエア台湾、岩手県と連携。二次交通を無料にしFITを呼込むCPを実施（岩手県）



韓国市場：

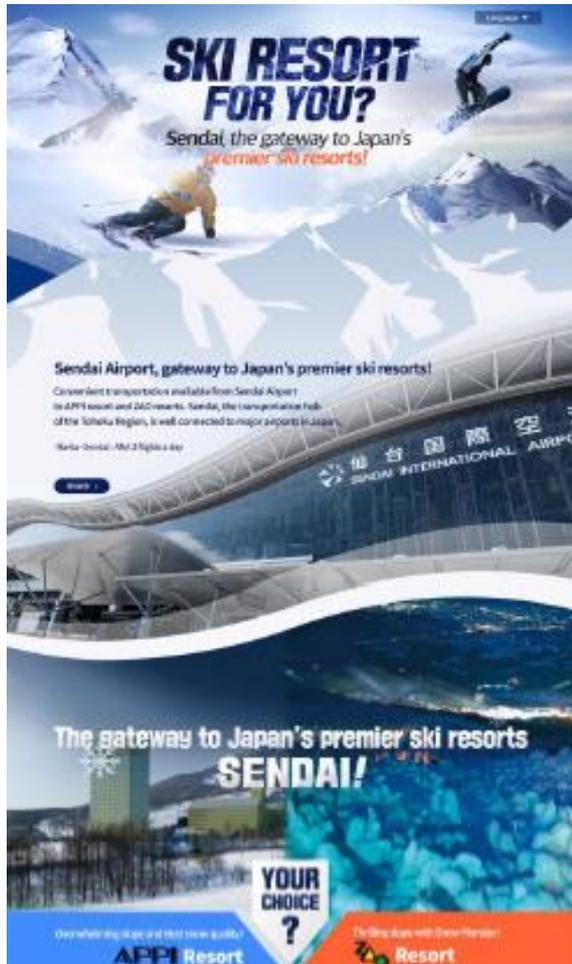
- ・ 山形向け商品のテレビショッピングを実施（山形県）



広域連携の取組み

東北スノーブランドの発信（蔵王温泉スキー場、安比高原スキー場）

空港HPにおいて、英語、韓国語、繁体字、簡体字で両スキー場の魅力を発信。外国人観光客の呼び込みを促した。

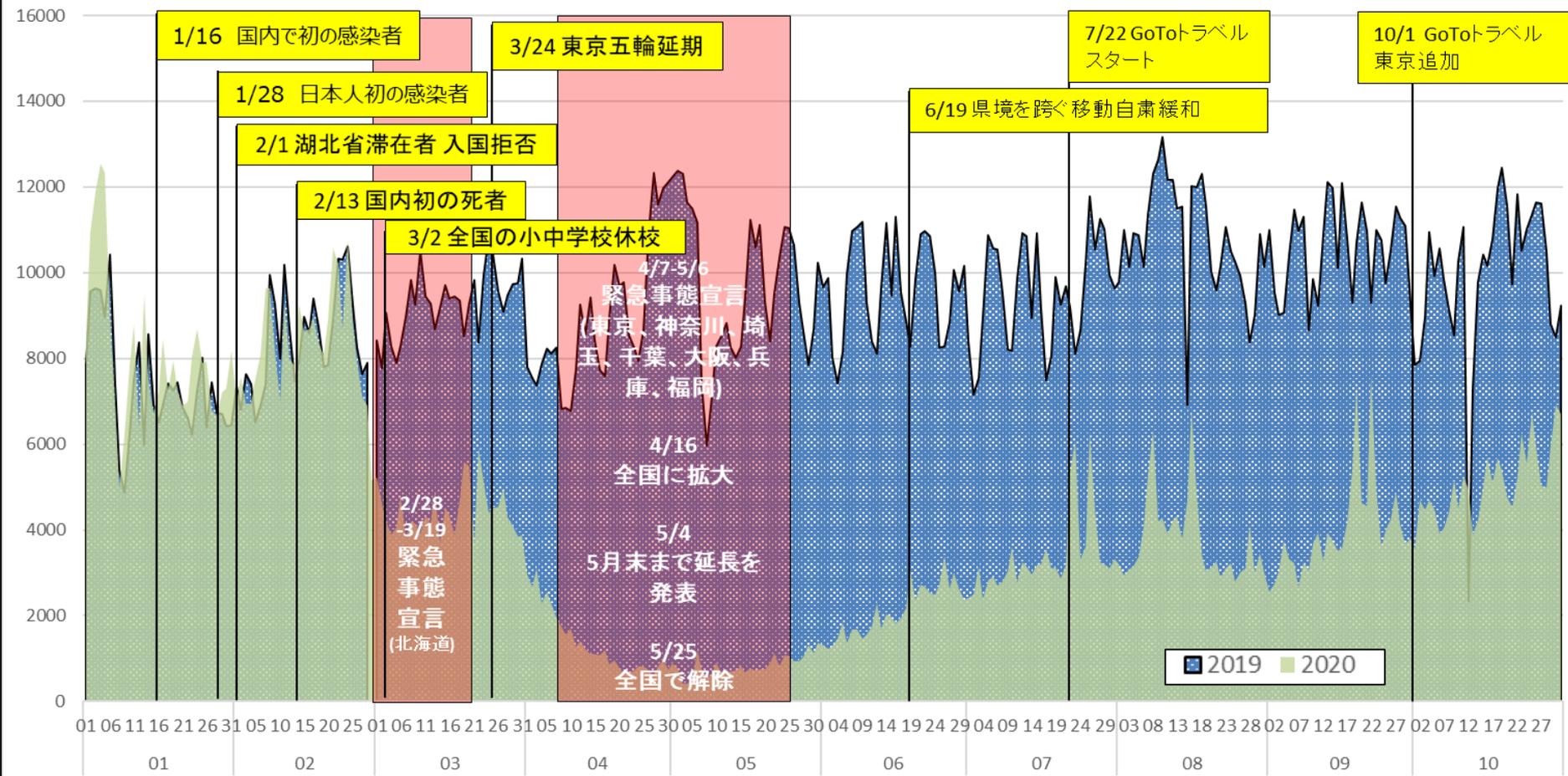


コロナウィルス流行後の状況・取組み

旅客数の推移(国内線)

最も落ち込んだ5月は前年比91%減。10月速報値は前年比49%減まで回復。
国際線は3月8日を最後に運航なし。

仙台空港旅客数(国内線)



1/16 国内で初の感染者

1/28 日本人初の感染者

2/1 湖北省滞在者 入国拒否

2/13 国内初の死者

3/2 全国の小中学校休校

3/24 東京五輪延期

4/7-5/6
緊急事態宣言
(東京、神奈川、埼玉、千葉、大阪、兵庫、福岡)

4/16
全国に拡大

2/28-3/19
緊急事態宣言
(北海道)

5/4
5月末まで延長を
発表

5/25
全国で解除

7/22 GoToトラベル
スタート

6/19 県境を跨ぐ移動自粛緩和

10/1 GoToトラベル
東京追加

■ 2019 ■ 2020

2020年度中間期 決算概況

2020年度は8300万円の純利益を計画していたが、9月発表の中間決算時点で約8.5億円の純損失。

	(百万円)	
	2020年度 (計画)	2020年度 (中間)
営業収益	6,339	833
営業費用	6,277	1,715
営業利益	61	△ 882
営業外収益	0	4
営業外費用	1	1
経常利益	60	△ 879
特別利益	0	37
特別損失	0	35
税引前当期純利益	60	△ 878
法人税等及び法人税等調整額	△ 22	△ 29
当期純利益	83	△ 849

(※千円の桁で四捨五入)

<参考> 旅客数計画と実績

	2020年度 (計画)	2020年度 (9月末まで)
旅客数	411 万人	47 万人
国内線	361 万人	47 万人
国際線	49 万人	0 万人

リニューアル工事の中断



2020年11月24日
仙台国際空港株式会社

「仙台空港旅客ターミナルビルリニューアル」工事の中断について

仙台国際空港株式会社では、2020年3月26日より仙台空港旅客ターミナルビルリニューアル工事を進めてまいりましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、この度、工事を中断することいたしました。

なお、工事の再開時期は未定です。新型コロナウイルスの感染状況や収束の見通し、旅客数の推移等を考慮しながら、安全・安心を最優先に、高いホスピタリティで空の旅を彩る空港体験をお届けできるよう計画を見直してまいりますので、何卒、ご理解くださいますようお願い申し上げます。

2階エアサイド内改修イメージ



2階中央物販店舗イメージ



3階待合ゾーン、飲食店イメージ



Almost 200 European airports facing insolvency in coming months

27 October 2020

ACI EUROPE today warned of such fundamental risks to business continuity that an estimated 193 airports face insolvency in the coming months if passenger traffic does not start to recover by the year end. These airports between them facilitate 277 thousand jobs and €12.4 billion of European GDP.

The threat of airport closure means Europe faces the prospect of the collapse of a significant part of its air transport system - unless Governments step up to provide the required support. So far, few have done so.

Data published today shows:

※ACI EUROPEホームページより抜粋

感染拡大防止対応①

ターミナルビル内の消毒・清掃



館内各所のお客さまが手を触れる箇所の消毒を実施



保安検査場では、検査で使用するトレーなどの消毒を実施



館内ロビー等では自動清掃ロボットも稼働

感染拡大防止対応②



飛沫感染予防シートの設置



飛沫感染予防シートをインフォメーションやチェックインカウンターなどに設置



ソーシャルディスタンスの確保



- ・床の目印を目安に間隔を空けての整列誘導
- ・座席を使用制限し、お客さま同士の距離を確保
- ・当社オリジナルデザインでの啓発コンテンツも制作し、館内各所で掲出



換気の徹底



館内空気を常時入替

アルコール消毒液の設置



館内各所へ設置

新型コロナウイルス感染症拡大防止にご協力をお願いします



仙台国際空港 × 仙台弁こけし。

新型コロナウイルス感染拡大防止にご協力をお願いします

ソーシャルディスタンスを保ちましょう



仙台国際空港

感染拡大防止対応③

サーモグラフィーの設置



館内のお客さま動線上にサーモグラフィーを設置
お客さまが体調をチェックするためのご利用を想定

※設置場所：

- ・館内 2 F アクセス鉄道連絡口付近
- ・館内 1 F 駐車場方面出入口付近

❗ デジタルサイネージ等での啓発



当社オリジナルデザイン画像を館内のデジタルサイネージで上映



岩沼市や名取市のキャラクターも登場した
ポスターを制作し、館内に掲出

国際線復便・就航への課題

入国時の検疫・水際対応における課題

<コロナ前>

降機

検疫
(体温確認・
健康相談)

入国審査

税関手続

目的地へ
(行動自由)

<当面の想定>

降機

検疫
(左記に加え、
新型コロナ抗原検査
やPCR検査)

検査結果判明後

入国審査

税関手続

14日間の施設等待機
(行動制限)

【課題】空港での検査等対応

- ・旅客待機用スペースの確保 (当社)
～検査前、検査結果判明前、入国後の滞在施設への移動前、それぞれの待機場所
 - ・検査所要時間の短縮 (国)
～唾液抗原検査の導入で約30分に短縮
- ⇒国際線の早期再開へ、現在関係機関と協議中

【課題】地域としての受入体制の整備

- ～医療、検査体制の整備をはじめ、受入のための地域理解の醸成など
- ⇒宮城県などと情報共有、連携体制を協議中

最新の取組み

エアラインセールス

国内線を中心に営業活動を継続。コロナウィルス拡大後、沖縄と中部の新規就航が決定。

年	路線	航空会社		運航頻度	運航機材 (座席数)	運航開始日 (予定含む)
2020	沖縄	Peach	LCC	新規就航！ 毎日1往復	A320 (180席)	2020/10/25
	中部	Peach	LCC	新規就航！ 毎日1往復	A320 (180席)	2020/12/24



観光促進の取組み

東北から就航先への送客を目的とした搭乗キャンペーンを企画実施。
 空港周辺地域の観光促進のため超小型電動自動車“COMS”を導入。

・8月～9月に名古屋キャンペーンを実施



・1月～2月に関西キャンペーンを実施予定



ミライの車「COMS」を
 仙台空港で体験しよう。



空港運用時間の延長①

宮城県と共同で空港周辺地域の理解と同意を得るための調整を実施

<地域へ提示した騒音対策案>

- ① 海側離着陸の遵守
- ② 山側離陸時の経路制限

③ 1夜間2回の離着陸制限

～23:00～翌5:00の時間帯は、
離着陸回数を2回に制限する

④ 試運転・逆噴射の制限

～延長した時間帯では、
エンジン試運転や、
着陸時の逆噴射を制限する

⑤ 県による防音工事

～一部の空港周辺地域の住宅
でのエアコン・内窓設置を
県が助成



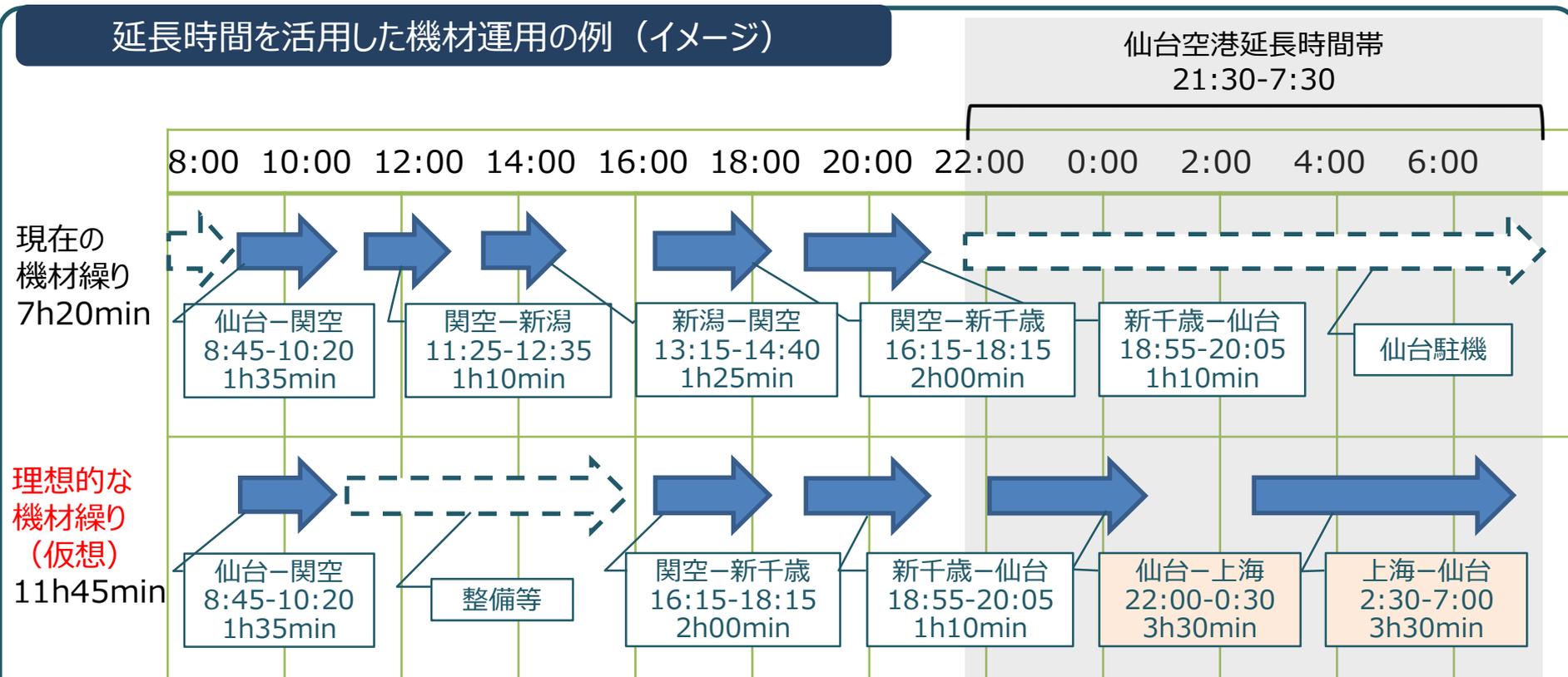
(宮城県資料より抜粋・編集)

空港運用時間の延長②

<運用時間延長によるメリット>

- ① 航空会社にとって、国内外の空港からの運航スケジュールへの柔軟な対応が可能に。
- ② 旅客にとって、就航便が増えることで多様な路線・時間帯での移動の選択が可能に。

延長時間を活用した機材運用の例（イメージ）



表中の時間はすべて現地時間表記。上海には-1時間の時差あり。
(宮城県資料より抜粋・編集)

航空貨物誘致から産業誘致へ

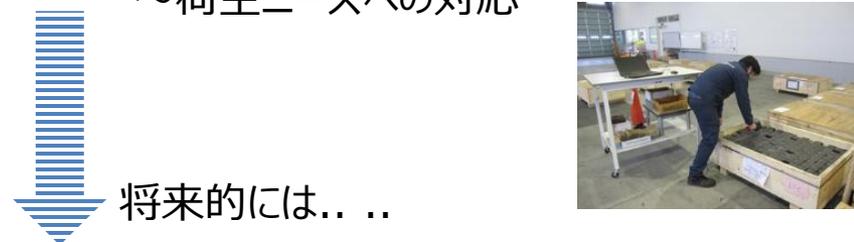
【荷主・運送事業者】

仙台空港を選択（成田空港混雑を回避）
～リードタイム圧縮



【空港】

付加価値の提供（検品・在庫管理等作業の受託）
～荷主ニーズへの対応



将来的には... ..

【地域】

新工場の誘致（地域による適地と労働力の供給）
～新たな産業の立地可能性



事例1) エアロエッジ様からの受託

2018年より当社へ作業、貨物取扱をご用命。
本年10月には、同社生産部品を採用した航空機エンジンLEAPが搭載されたエアバス社の最新機種A320neoを、Peach Aviationが導入し、その初日となる10月25日に仙台空港へ初飛来し、関係者で迎えた。



事例2) 東北大学発ベンチャーTESS様からの受託

本年11月より当社へ作業、貨物取扱をご用命。
同社が開発した歩行困難な方でも使える足こぎ車椅子「COGY(コギー)」を、工場のある台湾から仙台港経由で仙台空港へ輸送。ご利用者への物流拠点としてご活用いただく。



(画像提供：株式会社TESS)

旅客サービスへのIT技術活用

① 待ち時間表示

- 「旅客保安検査」(国内線・国際線)、「受託手荷物検査」(国際線)の混雑を表示

～ターミナルビル内モニターと
ホームページにも表示



② チャットボット

- 訪日外国人向けに、AIにより音声やテキストで自動的に対話

Hi 🙌 I'm Bebot, your AI helper.
Ask me about Sendai Airport 🗡️

Restaurants
To Sendai City

Where can I buy Sendai souvenirs?

Before security: General Store Hagi, Hashimoto Kamaboko, Shiraken Kamaboko (all on 2F)
After security: Sky Shop Boomerang, ANA Festa (both 2F)

Crafts Snacks Restaurants

Type a message

～提供内容～

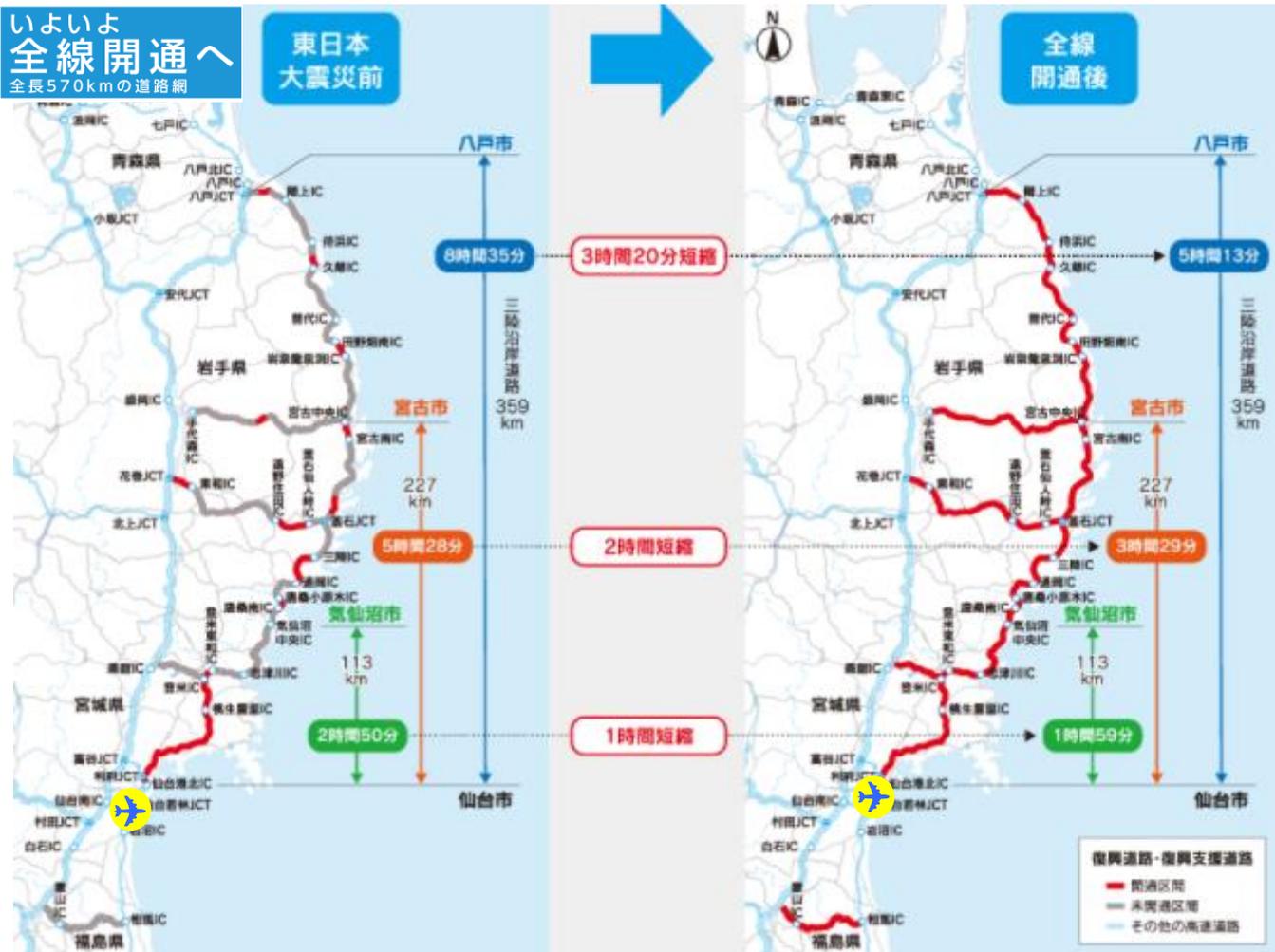
- ・ターミナル案内
- ・二次交通
- ・JR East Pass
- ・仙台の名所
..その他、

復興道路全線開通による空港利用エリアの拡大

復興道路全線開通により岩手県沿岸エリア、福島・米沢エリアからのアクセスが大幅に改善。仙台空港利用エリアの拡大が見込まれる。

復興道路
復興支援道路

いよいよ
全線開通へ
全長570kmの道路網



第1章 基本的な考え方

(1) 計画策定の趣旨

観光事業者等が資金繰りや雇用を維持し、感染拡大の波が一定期間繰り返すことを想定しつつ観光業を回復軌道に乗せ、その後の成長軌道に繋げていくための取組を推し進めるため、そのロードマップとして策定するもの

(2) 計画の位置づけ

第4期みやぎ観光戦略プランの実施計画(感染症の影響から回復するために新たに生じた課題解決の指針)

(3) 計画期間

令和2年10月から令和4年3月まで

計画期間	令和2年度		令和3年度		令和4年度	
	上期	下期	上期	下期	上期	下期
観光客数(万人)	14.0	14.0	14.0	14.0	14.0	14.0
観光消費額(億円)	1,400	1,400	1,400	1,400	1,400	1,400
観光客数(万人)	14.0	14.0	14.0	14.0	14.0	14.0
観光消費額(億円)	1,400	1,400	1,400	1,400	1,400	1,400

第2章 観光の動向及び新型コロナウイルス感染症の影響と課題

新型コロナウイルス感染症による観光への影響

- 3～8月の県内観光動向は、4～5月を底として6月以降は多少持ち直したものの、厳しい状況は継続
- 8月の県内の観光客入込数及び宿泊観光客数は、前年同月比それぞれ▲60.8%、▲53.4%
- 8月の外国人観光客宿泊数は、対前年同月比で▲95.7%の1,830人
- 3～8月の観光消費の減少額を試算すると、約1,310億円(令和元年年間観光消費額の約33%)と推計
- 旅行業や宿泊業はもとより、地域の交通や飲食業、物品販売業など多くの産業に深刻な影響が発生

観光客入込数(3月～8月)



出典：宮城県観光課調べ(速報値)

宿泊観光客数(3月～8月)



出典：宮城県観光課調べ(速報値)

外国人観光客宿泊者数(3月～8月)



出典：観光庁 旅行統計調査

みやぎ観光振興会議の設立と委員意見



【観光の課題についての委員意見】 ※全体会議・地域会議での共通課題を抽出

- 安全安心対策の迅速化、可視化及び情報発信のほか、設備投資や取組への支援が必要
- フェーズに応じた事業者への支援や県内から東北、国内等へ需要喚起を広げる取組が必要
- 地域の魅力の再発見や磨き上げた魅力の情報発信、イベント再開の支援等が必要
- 自然を活用し、三密を回避した体験型コンテンツなど、地域の強みを生かした取組が必要
- 新しい生活様式・新しい観光に対応したビジネスモデルの転換が必要
- 5G等の情報通信環境やDX(デジタルトランスフォーメーション)への対応が必要
- コミュニティやネットワークの再構築、関係人口を増やす取組や情報発信が必要
- 点から線、線から面へと、観光客が周遊できる広域連携の取組が必要
- 東北の豊かな自然の活用策として、関心が高まっているワーケーションを進めるべき。
- 今後、発展が見込まれる観光分野にSDGsの思想を掲げるべき。

第3章 計画の基本理念と3つの視点

<計画の基本理念>

安全安心の確保とともに、デジタル変革を進め、新たなビジネスモデルの創出を図り、持続可能で選ばれる観光地をつくる

- 新型コロナウイルスの影響により、人々の行動変容が起きている中、観光の在り方が大きく変化
- 安全安心対策を踏まえた新しい観光のニーズに対応した事業者のビジネスモデル転換を支援
- SDGs(持続可能な開発目標)の特徴やターゲットの内容等を生かし、官民それぞれの役割分担のもと連携して、時代や価値観に順応した持続可能なみやぎの観光基盤の形成を目指す
- デジタル技術の積極的な活用により、感染症対策やサービスの効率化などの取組を支援
- 受入環境のデジタル化、オンラインツーリズム、デジタルマーケティングなどあらゆる観光施策にデジタル化を加速し、円滑(シームレス)で非接触(タッチレス)なサービス提供に繋げる。



視点1 安全・安心の機運の醸成と可視化により、選ばれる観光地をつくる

(1) 観光地として選ばれるための安全安心の対策とその見える化

- 安全安心対策とその見える化は、観光地として選ばれるための必要不可欠な要素
- 業種別ガイドライン等に基づき、観光事業者が行う安全安心対策の取組を横展開し可視化
- 住民がみやぎは安全安心だと感じ、旅行者が感染防止の「新しい旅のエチケット」を徹底して、地域と旅行者の双方の安心感を醸成するとともに、取組や機運を発信していくことで、安心マインドを形成し、東北や宮城の強みを組み合わせ、選ばれる観光地を目指す



(2) 入国制限緩和を見据えたインバウンドへの取組

- インバウンドは引き続き重要であり、東北・宮城として需要を取り込む取組を推進
- 訴求力が高い歴史・文化や宮城の強みである豊かな自然や食、癒やしに加えて、サイクルやトレイルといったアウトドア等コンテンツの魅力向上
- 海外の感染症対策に適応した取組や安心感に繋がる情報発信とともに、プロモーションを展開



視点2 回復フェーズに応じた取組を推進するとともに、観光資源の魅力を再発見し、地域と旅行者の関係を深める

(1) 社会経済活動の回復フェーズに応じた取組の推進

- 感染症との共存も視野に入れながら感染拡大の波を想定し、回復フェーズに応じた取組を推進
- 感染拡大防止期は、事業者の事業継続と雇用維持のための資金繰り支援や、早期の経営資金の調達と未来の顧客確保に繋がる取組を支援
- 近郊旅行から、県内、東北等と徐々に観光需要が回復していく動向を捉えた取組を推進
- 消費喚起キャンペーンにより県内や東北から段階的に回復、国のキャンペーンと相乗効果を得る取組を図り、新たな観光客の呼び込みとリピーターの確保により、旅行者との繋がりを再構築



(2) 地域の魅力の再発見と旅行者の受入体制の構築

- 近郊旅行や県内旅行の増加を好機と捉え、地域の魅力を再発見・再認識する機会となる取組を推進
- 空港や駅からのアクセス向上や地域内周遊のための二次交通の利便性向上など受入環境充実への取組
- 持続可能な観光地形成のため、地域が観光産業の価値等への理解を深め、地域の受入体制の構築・強化



(3) 交流人口の拡大に加えて関係人口の拡大へ

- 地域の人口減少が加速化する中、単なる交流人口に留まらない関係人口の拡大・構築が重要
- 休暇と仕事を両立させる新たな観光の在り方として、関心が高まるワーケーションの取組の推進
- 一時的な需要喚起に留まらない、地域との交流プログラムなど関係性の継続に繋がる取組を支援

視点3 ニューノーマルに適応したビジネスモデルに転換し、新たな観光を創出する

(1) 新しい価値観からみやぎの新しい観光創出へ

- 新しい生活様式に適応し、経営を維持できるようビジネスモデルの転換を迫られている
- デジタル技術等の活用による固定費削減、宿泊単価や客室稼働率の引上げ等の取組
- 観光客と観光地、観光施設が地域に一定の責任をもつレスポンスフル・ツーリズムを展開し、持続可能なみやぎの観光を目指す



(2) みやぎにしかないアドバンテージを生かす

- 東北DC、東京2020オリパラ、復興10年などみやぎにしかないアドバンテージ
- 震災復興や伝承のコンテンツ(語り部等)を生かした未来に繋がるみやぎらしい新しい観光を創出



第4章 県内各圏域の施策の方向性

仙南圏域

- (1) 従来からの強みに加え、弱みを強みに転換する取組
 - 安全安心対策コスト支援等、新たなビジネスモデル転換支援、MaaSと関連づけた安全・安心情報の共有ネットワーク化等、温泉街の活性化等、朝型観光へのシフト
 - 温泉ワーケーションへの環境整備、情報発信
- (2) 地元の良さ再発見、磨き上げとPR等により、地域に利益を還元
 - 県内周遊キャンペーン、ビジネス客を通じた「安全安心」の情報発信、生活困窮外国人留学生対象ツアー等
 - 体験・「コト」消費の推進、サイクルツーリズムの呼び込み
 - 地域のポータルサイトによる情報発信、ECサイトの立上げ

栗原圏域

- (1) 地域全体の安全・安心体制整備とその「見える化」
 - 地域独自の「ガイドライン」整備等、安心な観光客受入体制整備等、デジタル化に対応した通信環境整備の取組等
- (2) 「新しい生活様式」に合わせた資源磨き上げとマイクロツーリズムの推進
 - 市民の近場観光の推進、少人数による長期滞在型旅行、嗜好みの旅行、客層に合わせたコンテンツの磨き上げ
 - 「新しい生活様式」に対応に対応したデジタル化の推進
- (3) お客様との「関係づくり」に重点を置いた集客戦略
 - 「関係案内所」の設置等、コーディネート体制の構築支援
 - 体験プログラムを生かした教育旅行等の誘致推進、東原市出身者等によるふるさと応援活動推進

仙台圏域

- (1) マイクロツーリズムなどの域内流動の促進
 - 圏域の地域を対象とした誘客促進、富城・山形間の相互交流促進、デジタルスタンプラリー、公共施設等の無料化により冬季の街歩き促進
- (2) 地域の魅力に対するシビックプライドの醸成
 - 東北DCに向けた観光素材を発掘・磨き上げ、観光素材の募集・魅力発信
- (3) ビジネスモデルの転換に対応した新たな観光の推進
 - 宿泊施設の活用を促進する地域観光グループの形成・展開支援、Wi-Fi・5Gの環境整備支援

登米圏域

- (1) 圏域観光の周遊促進
 - 風土マラソン等のイベント参加者を圏域内観光地へ誘導、自然や食材・農林業体験等の滞在型コンテンツの拡充、魅力ある観光資源の掘り起こし等、受入体制の整備
- (2) 圏域観光地の発信力向上
 - ソーシャルメディア等を活用した効果的観光PR推進、「みやぎの明治村」等圏域観光地の魅力を再発信
- (3) 「おかしりモノ」で知名度アップ
 - 気仙沼市と一体となった効果的なプロモーション等
- (4) 圏域一体となった観光地域づくりの推進
 - 観光地域づくりの意識啓発と機運醸成、圏域観光をコーディネートできるリーダー人材、組織の育成

大崎圏域

- (1) 宿泊施設が「安心」と認識されることへの対策
 - 店舗・施設への確認や指導、徹底したコロナ対策事業と支援、優れた「安全・安心」の旅館のアピール
- (2) 第二波に対応できる新しいビジネスモデルの推進
 - 旅館等をWEB会議の会場として提供（ワーケーション推進含む）
 - 旅館等の地域内利用の推進
 - 旅館等の平日利用の推進
- (3) 地域が一体となって取り組む観光振興の推進
 - 観光気運醸成に係る取組、教育旅行等向け一元的相談窓口の設置、大規模な会議等の誘致

石巻圏域

- (1) 近郊観光【マイクロ・ツーリズム】
 - 「通年」な観光の浸透、観光資源の面的な整備、半島部や離島部等のレジャーワーケーション、安全安心に関する学校教育等、学校や職場の休みの分散化推進
- (2) 二次交通【アクセス・トラフィック】
 - 半島部や離島部のバスやタクシー利便性向上、レンタルサイクル施設の整備、複数航路の乗継の仕組みの整備
- (3) 情報発信【デジタル・トランスフォーメーション】
 - 半島部や離島部などの無料Wi-Fi設備の整備、県内主要観光地から観光客を呼び込むための情報の一元的発信
 - 宿泊施設や飲食店等での非接触型サービスの導入促進

気仙沼・本吉圏域

- (1) 滞留性・周遊性を高めつつ、安全・安心で新たな観光ニーズに対応した観光モデルの構築
 - スポーツ等の体験型や震災等の学習型、あるいは広域型などの地域の魅力を一体的に楽しめる観光パッケージの造成、エリア等限定的割引宿泊券など県内在住者の誘引策、三陸沿岸道路と絡めた誘引策や「おかしりモノ」を生かしたプロモーション
- (2) 磨かれる観光地となるための効果的な情報発信
 - SNS等による圏域の観光情報発信や安全安心の取組の可視化
- (3) 圏域への公共交通アクセスの改善
 - 乗り継ぎダイヤの改善や、接続交通運行への助成

食 × 文化・自然 × 癒し × アウトドア



第5章 観光需要の回復フェーズに応じた具体的な取組

感染症の影響による観光需要の回復フェーズを以下の4段階に整理した上で、各段階に応じた対策や季節変動に応じた切れ目のない取組を推進する。

- (1) 感染拡大防止期 徹底した感染拡大防止対策を講じる時期（積極的助走期間）
- (2) 県内回復期 近隣日帰り旅行や県内宿泊旅行による県内流動の回復期
- (3) 国内回復期 国内の滞在型旅行による国内流動の回復期
- (4) 国外からの訪客回復・発展期 訪日外国人旅行者の呼び戻し・社会構造変化に向けた新たな需要へのシフト（ニューノーマルな観光の創出）

(取組のイメージ)



※ トrendとしては取組に向かうシナリオを想定しているが、ワクチンや治療薬が開発されるまでの間は、感染拡大の波が想定されるため、感染の状況に応じ、弾力的に取り組んでいく。

主な取組一覧

視点1 安全・安心の機運の醸成と可視化により、磨かれる観光地をつくる

事業名	(1)	(2)	(3)	(4)
安心な観光地づくりの推進事業	●	●	●	●
観光事業者スタンドアップ支援事業	●	●	●	●
県内在住の外国人を活用した情報発信事業	●	●	●	●

視点2 回復フェーズに応じた取組を推進するとともに、観光資源の魅力を再発見し、地域と旅行者の関係を深める

事業名	(1)	(2)	(3)	(4)
観光・宿泊・飲食事業者クラウドファンディング活用促進事業	●	●	●	●
観光宿泊プラン造成支援事業（せんだい・みやぎの寝る旅キャンペーン）	●	●	●	●
小規模宿泊事業者支援事業（仙台・宮城すずめのお宿キャンペーン）	●	●	●	●
中小企業等再起支援事業	●	●	●	●

視点3 ニューノーマルに対応したビジネスモデルに転換し、新たな観光を創出する

事業名	(1)	(2)	(3)	(4)
みやぎ観光デジタルマーケティング推進事業	●	●	●	●
東北デスティネーションキャンペーン推進事業	●	●	●	●



復興ピアノ





東北の空を、世界の空へ。

仙台国際空港